

〔 活用整備 〕

活用整備の推進

（１）基本方針

ア 保存整備と並行した活用整備を実施します。

保存整備は、実施すべき箇所が長距離かつ多数であるため、整備が完了するまでには、長期間を要します。

したがって、活用整備は保存整備の完了を待つことなく、可能な施策から保存整備と並行して順次進めていきます。

イ 保存整備と連動した効果的な活用整備を実施します。

今後、保存整備が進むとともに、整備完了箇所を中心に、来訪者の増加が期待されます。そのため、保存整備を実施した箇所は、連動して公開のための施策を展開していきます。

ウ 段階的な活用整備を進めます。

史跡・名勝の積極的公開を行うためには、水路・^⑧法面の保全など、フェンス内側の整備を進めるとともに、フェンスの外側についても便益施設や管理施設の整備が効果的です。

それらの施設は、設置者・管理者が複数存在するため、各関係機関と連携しながら、段階的に整備できるよう努めていきます。

（２）施策の進め方

玉川上水や名勝小金井（サクラ）の来訪者や地元住民等に、玉川上水に親しみ、理解を深めていただくため、次の３つのテーマを設け、関係機関と協議の上、可能なものから順次施策を展開していきます。

- テーマ１ 玉川上水を見せる ：橋梁や緑道からの眺望の確保
- テーマ２ 玉川上水への理解を深める ：説明板の設置、PR活動の強化
- テーマ３ より多くの人々が安全・快適に利用し、親しめるようにする ：管理施設（フェンス）のデザインの規格化、便益施設の設置、散策路の拡充

(3) 実施施策

史跡と名勝の価値を普及・啓発するための具体的施策については、眺望の確保など現地における作業や工事を伴うもの（ハード面）と、適切な情報発信などPR活動の強化として実施するもの（ソフト面）があります。

(3) - 1 現地の施設等の改善（ハード面）

玉川上水を積極的に見せ、理解していただくための現地における改善策として、次の施策を優先的に実施します。

ア 散策路等の改善

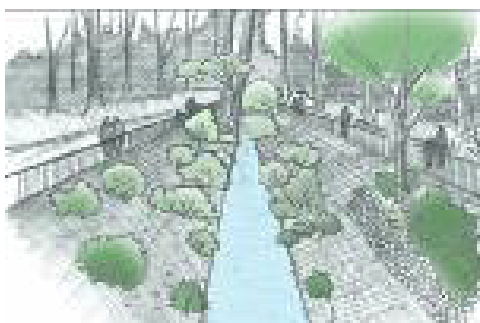
玉川上水の積極的な公開により、都民や来訪者が史跡をより身近に感じることができ、歴史的価値と保存への理解が深まるように、散策路の改善を行います。

(ア) 眺望の確保

玉川上水を利用する際に、玉川上水を眺めながら散策や休憩ができるよう、水路内の景観、樹種等に配慮し、緑道沿いの中低木の^{せん}剪定や伐採・下草刈りを行います。

また、橋の上からも通行者が玉川上水を眺望できるよう、水路内の中低木の^{せん}剪定、伐採や下草刈りを行います。

これらの施策を実施した後も、眺望が確保されるように^{せん}剪定や草刈りなどの計画的な植生管理を続けていきます。



橋梁からの眺望のイメージ



緑道からの眺望のイメージ

図 - 5 眺望のイメージ

(イ) 安全快適な通行の確保

フェンスが張り出していることにより散策路が途切れている小川水衛所跡（小平市）及び境水衛所跡（武蔵野市）において、既設フェンスのセットバック⁷と通路の整備を実施し、歩行者が安全で快適に通行できるようにしていきます。

また、既に散策路が整備されている区間でも、フェンスから水路までの距離が離れていたり、緑道幅が狭いなどのために安全で快適な通行や水路への眺めが損なわれている箇所については、フェンスの更新時期等に合わせたセットバック、無電柱化、路面の改善等を検討するよう、各施設管理者等に働き掛けていきます。

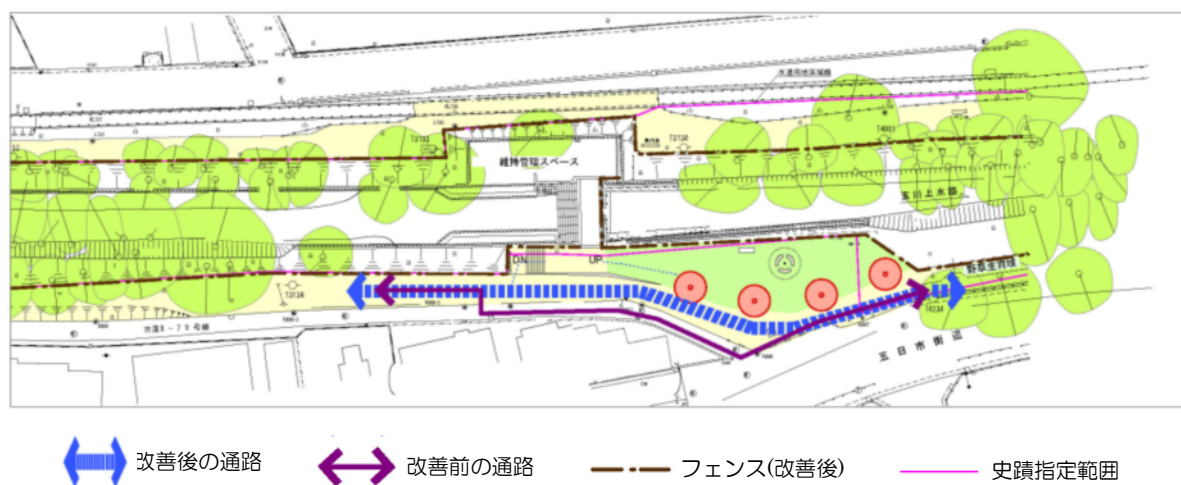


図-6 小川水衛所跡の散策路の充実のイメージ

⁷ フェンスの位置を水路側に後退させ、通路幅を拡げる方法

イ 説明板の設置

玉川上水の来訪者に、玉川上水が史跡として指定され、また、江戸・東京の水道事業に重要な役割を果たしてきた水道施設であることについて理解を深めていただくため、説明板を設置します。

設置場所については、多くの来訪者の目に触れる場所、本計画に基づき実施する取組を効果的に伝えることができる場所を選定します。

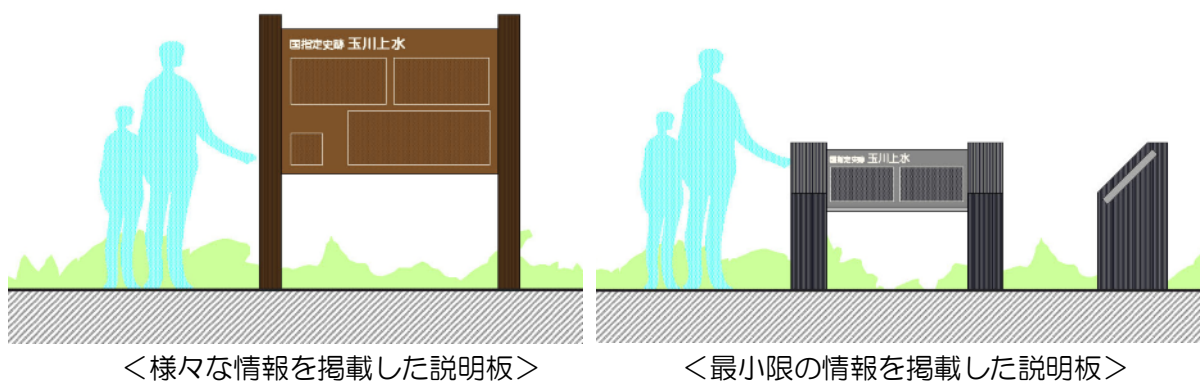


図 - 7 説明板の仕様例

ウ フェンスデザインの統一性の創出

道路や緑道の管理者がそれぞれ設置しているフェンスについて、文化財としてのまとまりを創出するため、今後の更新に当たっては、統一的なデザインとなるよう、次のように各管理者に働きかけていきます。

(ア) 基本的な規格

- ・ 存在を強調しすぎないシンプルなデザインで、フェンス外側の利用状況や周辺地の景観に調和したものとする。
- ・ 素材は、保安施設としての耐久性を維持できるもので、可能な限り自然素材を使用する。

(イ) 素材・色彩

存在を強調しすぎない明度・彩度の低い色彩とし、利用状況に応じ、表4のとおりとする。

表-4 フェンスの素材・色彩

利用状況	規格（素材・色彩）
道路（車道・歩道）	素材：メッシュ（格子が細く目立たないもの） 色：黒色等明度・彩度の低いもの
緑道	素材：木製又はコンクリート等 色：樹木調の色

(ウ) 高さ

「公園施設設計施工基準」に準拠し、^⑧法面の状況に応じて次のとおりとする。

- ・オーバーハング状又は直壁状^⑧法面の箇所：転落防止柵（高さ110センチメートル）
- ・傾斜状^⑧法面等：立入防止柵（高さ50センチメートルから80センチメートル）

(エ) 例外的な取扱い（規格の変更）

利用状況（緑道・道路等）が短区間で変化する場合、通学路沿いで特段の配慮を要する場合など、別途デザインや規格を検討すべきと考えられる場合には、関係機関と協議していくこととします。

エ 周辺資源と結びつけた散策ルートの設定

玉川上水沿線には、公園や資料館等の様々な文化施設が存在していることから、こうした周辺施設を来訪のきっかけとなる資源としてとらえ、周辺施設等の関係機関と協議しながら、相互に誘導しあえる散策ルートの設定に取り組んでいきます。

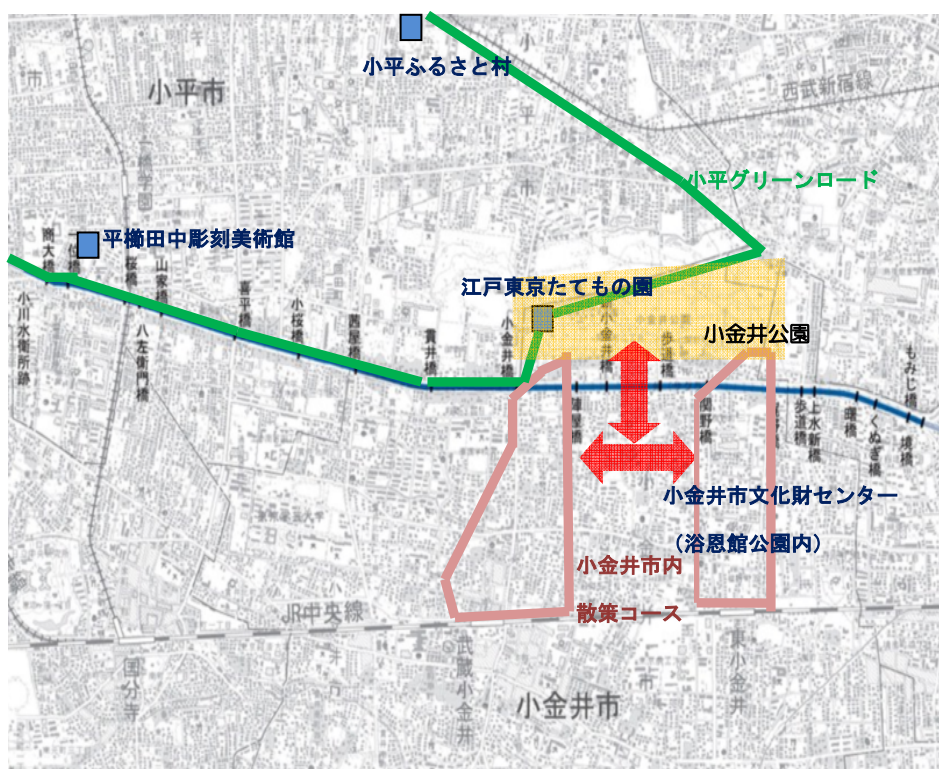


図 - 8 散策ルートの設定イメージ (例)



新たな散策ルート

<年次計画：現地の施設等の改善>

取組内容		実施年度												
		22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
眺望の確保	中低木の 伐採・ ^{せん} 剪定・ 草刈り												橋（8箇所程度）の前後 ±50mで実施 緑道については、周囲の 景観に配慮しながら、地 元と調整して実施	
	植生管理												おおむね2年に1度	
安全快適な 通行の確保	設計													小川水衛所跡 境水衛所跡
	施工													
説明板設置	デザイン検討													保存整備完了箇所から 順次設置予定（7箇所）
	設置													
フェンスデザ インの統一化	小川水衛所跡 境水衛所跡													
	その他の場所													
散策ルート 設定													2ルート程度	

(3) -2 PR活動の強化(ソフト面)

玉川上水に対する理解を深め、親しんでいただくため、既存施設や広報媒体など多種多様な情報を結びつけるとともに、他の関係機関と連携し、情報提供とPR活動の充実を図ります。

ア ホームページの改善

各機関で設置する既存のホームページに簡単にアクセスでき、情報を容易にまとめて入手できるようにしていくため、東京都水道局ホームページの中に玉川上水に関する情報を一箇所に集めるポータル(玄関)サイトを新設し、内容を充実させていきます。

主に次の事項を掲載し、随時更新していきます。

- (ア) パンフレット、資料、マップ等の紹介
- (イ) 各機関・団体ホームページとのリンク
- (ウ) イベントに関する情報
- (エ) 散策ルート等の設定、紹介



図-9 ホームページ(イメージ)

イ 東京都水道局施設の活用による普及・啓発

東京都水道局のPR施設である水道歴史館（東京都文京区）では、玉川上水など江戸・東京の水道事業の歴史に関する文献等の収集や展示公開等を行っています。
これらの事業を引き続き実施するとともに、情報の充実を図っていきます。

ウ 近隣公立施設（公園、資料館等）との連携

玉川上水沿線には、都や地元自治体の文化施設（公園や資料館等）が多数あり、それぞれ独自に運営されています。これらの各施設との連携を強め、各施設へのパンフレットの配置や玉川上水に関する文献等の収集を進めていきます。

エ 便益施設の案内

利用者に安心して玉川上水を訪れていただけるよう、トイレなどの便益施設について事前案内を充実します。

具体的には、地元自治体や関係団体等のホームページとリンクさせて設置場所を容易に検索できるようにするほか、散策に便利な出版物を紹介していきます。

<年次計画：PR活動の強化>

実施年度 取組内容	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
ホームページ の改善	運用開始 内容見直し											随時更新、項目充実
水道局施設の 活用	準備 順次実施											水道歴史館
近隣公立施設 との連携	絞り込み、打診、調整 順次実施											水路法面の保全終了後 から本格実施
便益施設の 案内	順次実施（ホームページへの掲載）											局パンフ更新時に 内容追加

